



No.727



豊穰への一念、的中さす。



特集

御弓神事とともに受け継がれる食文化

篁岳山篁峯寺のお精進

1月第4週の日曜日、篁岳山篁峯寺において、県指定重要無形民族文化財の白山祭が執り行われます。

その年の天候を占う『御弓神事』が注目されますが、その日訪れた人々を各宿坊がおもてなしする『お精進』の食文化も代々受け継がれています。

信仰に対するおもてなし

年末から例祭前にかけて、各宿坊で、霞場かすみばと呼ばれる信徒の住む地域を訪問してお札を配り、お布施として米一升(現在はお金)を受け取る。その際、白山祭の案内も行い、訪れていたいただいた信徒に提供されてきたのが、『お精進』。

厳格な物忌みを行う『白山祭』の一環としての『お

精進』にも厳格なしきたりがあります。

「かつては、正月3日に行う元三がんさん会で食べる福田餅は男手だけで準備しました。各正月行事ごとに献立も決まっています、宿坊ごとに作り続けてきています」。

その一方で、宿坊の後継者が不足し、正月行事の簡素化とともに、『お精進』の食文化を継承していくことが難しくなっている。と松本坊・坊城延溟住職は話します。



坊城延溟さん(松本坊住職・篁岳区)

【正月行事とお精進】

●元三会

砂糖の入らない小豆汁、納豆、雑煮、大根おろしの餅。すべて食べなければならぬ。例祭前日も餅を食べる。その際は、砂糖の入った小豆汁になる。

●例祭

観音堂で、御神酒頂戴として日本酒(かつては濁酒)とオサングシ(三角に切った焼き豆腐とごぼうをクシに刺したもの)がふるまわれる。

当前の宿坊での御本膳は、ごはん、汁(油揚げ・豆腐・大根)、皿には柿なます、カク(椀には椎茸・こんにゃく・にんじん・ごぼう・きりいも、二のカク(椀)には引き昆布・油揚げ、猪口に入ったマツモなど。(右記は、一例)

今年の天候は？

御弓神事



今年のお稚児さんは明石款汰くん(5の2区)と大森悠叶くん(太田区)。2名が放った13本(うるう年のため1本多く)の矢は、10本が的中。

3月と4月が外れたため、稲の種まきは早めに行った方がよい。9月は真ん中の中したもの、8月は外れたため稲の花が咲く時期に雨が多くなる。全体として稲作は、8分の出来と占われました。

なお、1月3日(日)に行われた作試しにおいても同様の結果が占われました。

お精進のいろは

—現代のおふるまいされるお精進—

訪れる信徒をもてなす昔ながらの精進料理膳。
松本坊・中之坊・井上坊・実相坊の各宿坊の特
徴的な品々についてご紹介します。

①ごはん

祭事に合わせ、お赤飯や炊き込みごはんなど。

②みそ汁

大根、油揚げを具材の基本とする。だしは昆布。

③カク

くるみ豆腐に、甘辛く煮たたけのこ、しいたけなどを入れる。あんかけをかける宿坊もある。

④大皿

白和えやきんとん、寒天、煮物などのおかず。奇数の品目をのせる。



(取材協力：松本坊)

⑤二の汁

お吸い物。だしは昆布。

⑥中皿

煮しめ。ひき昆布やしいたけ、にんじんなど。

⑦猪口

酢の物。長芋などを二杯酢で和える。

⑧香の物

大根やきゅうり、白菜などのお漬物。

⑨つぼ

松本坊ではお菓子。僧の方々に提供される際は、御神酒が入る。



(取材協力：中之坊)



(取材協力：井上坊)



(取材協力：実相坊)

製法や素材にこだわり 伝統を受け継ぐ

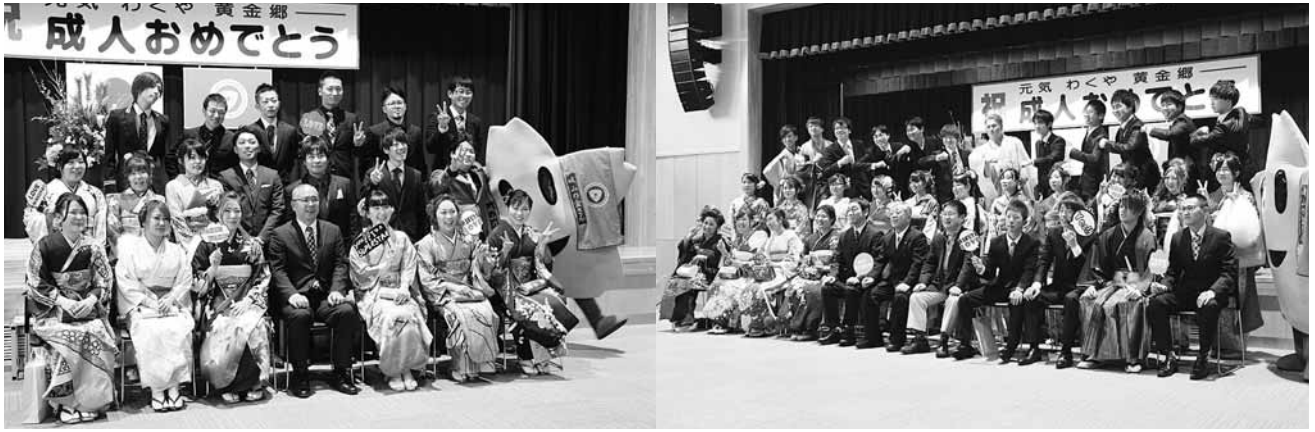
中之坊のお精進に欠か
せないのは、山から採つ
たジネンジョをノリで巻
いたもの。ジネンジョな
らではの食感がおいしい。
カクに入ったくるみ豆腐
も、本くずにこだわり、
毎年手作り。
二の汁には、天台宗の
総本山延暦寺の湯葉を用
いるなど、伝統ある白山
祭に恥じない料理をと一
年間かけ、試行錯誤。一
品一品に伝統への誇りを
凝縮しています。

春薫るお精進 母から受け継がれる味

井上坊では、白山祭に
向け春から一年かけて準
備を行います。
春に採れたコゴミやウ
ドなどの山菜を塩蔵保存。
また、初物のフキノトウ
もお膳にのり、訪れが待
ち遠しい春をお膳から感
じさせます。
大皿に乗った豆もやし
とにんじんの酢の物は、
「これだけは受け継がな
いといけない」と、母親
に作り方を伝授してもら
い、毎年作り続けられて
いる一品。

現代に生きる当渡しの味 お精進を乗り切る工夫も

実相坊では、御弓神事
の際にふるまわれるオサ
シグシの他、かつて夜通
し行われていた「当渡し」
の際に食べられていた
「オカラミ(マツモの唐辛
子しょうゆ味)」がお膳
にのります。
クリームチーズを使つ
た白和えや鳥のから揚げ
風に調理された車麩など、
お精進の期間中に恋しく
なる肉類を疑似的に味わ
える工夫が要所に施され
ています。



平成28年涌谷町成人式

新成人157人の二十歳の誓い



平成28年1月10日(日)、涌谷公民館を会場に、平成28年の涌谷町成人式が執り行われました。

この日成人を迎えたのは、平成7年から平成8年にかけて生まれた157人(男性77人・女性80人)。

新成人代表2人の二十歳の抱負

式では、代表の2人が二十歳の抱負を述べました。一部をご紹介します。

佐々木亮太さん(猪岡区)

現在、私は震災復興関係の仕事に携わっています。日々の仕事は、新しいことばかりで大変ですが、現場で必要な知識を身につけ、一日も早く現場監督となれるよう努力しております。

現場での仕事は今年で3年目に入りますが、実際には上司の方々と働くと自分の力不足や技術の無さを痛感しますが、自分から行動し、進んで仕事に取り組んで成功することで、自分に自信をつけることができました。

久道瑛未さん(7区)

数年後社会に出たときには、社会的矛盾で苦しむ人々を救うべく、法律のプロとして働きたいと思っています。そして、最終的には世界の平和に少しでも貢献できるような仕事をするのが、人生の目標です。

自分たち、そして次の世代の生活を守るため、政治や社会のあらゆる問題から目をそらさず、次代を担う自覚と責任をもった大人になろうと決意しています。また、そのように生きるからこそが、これまで私を支えてくださったすべての方々への恩返しにも、きっとなるだろうと思います。

感謝と誇りを胸に

桜井志朗さん(下小塚区)、安部純香さん(猪岡区)の2人から力強く誓いの言葉が述べられました。

式終了後には、中学校のクラス単位で恩師を交えて、記念撮影をし、幕を閉じました。

Q. 涌谷の
どんなところが好き？
城山の桜が好き

Q. 今の夢は？
大学で機械を
学んでいるので
エンジニアなどの職に
就きたい

Q. どんな社会人に
なりたい？
社会を担う責任と
自覚ある社会人に
なりたい

Q. 二十歳になり誰に
感謝していますか？
親・友達・先生方
Q. 二十歳の抱負は？
責任を持つ！



参考までに、
Q. 今後の涌谷町にどんなことを望む？
・若さあふれる町に！
・子どもから大人まですべての
人が安心して暮らせる町で
あり続けてほしい！
・電車のアクセスを快適に！

【左から順に】佐々木亮太さん、桜井志朗さん、久道瑛未さん、安部純香さん



①②城山の金さんとフォトセッション。皆さん、本当に良い笑顔！
③式典が始まると、式前と打って変わって凛とした成人のたたずまい
④町民憲章の唱和。成人の皆さんは、町民憲章をご存知でしたか？



「涌谷ブランドを創る人」をつくる場、 始まりました。



WAKUYA
MACHI-HITO-DESIGN-LAB

涌谷の地方創生の幕開け

平成27年12月から平成28年3月までの期間、涌谷のブランドづくりを担う人材育成と、涌谷のブランドとなる商品や観光ブランド等の開発を目指した「涌谷まち・ひとデザインラボ」を開設。わくわくする涌谷の創生が始まりました。

大沸騰の第1回目

昨年の12月27日(日)、「これから事を起こしたい」、「とにかく涌谷のために行動したい」といった志を持つ老若男女60名が集結。

第1部ではNPO法人まちづくりの「代表理事の齋藤潤一氏により、『発見・磨く・発信』地域にお金を生み出す仕組みとは?』と題した地方創生を成功させるための手法が紹介され、第2部では本事業のファシリテーター氏家混一氏による「オール涌谷ぐつぐつ会議」と題したワークショップが実施されました。涌谷についてとことん語り合うワーク。その名のとおり、沸騰する勢いで地域資源が掘り出されました。

ブランディングを学ぶ

年が明け1月12日(火)、町を挙げてブランディングに取り組む先進地山形県朝日町を視察。

朝日町役場では、取り組みの経緯と手法を受講。

その後、朝日町民がブランディングを学び実践する「あさひまちブランド大学」に参加。ブランディングによる「人材育成」・「地方創生の本質」を体感してまいりました。

人の心を動かす「なぜ」

1月16日(土)、「涌谷わげもん会議」と題し、前回に引き続き齋藤潤一氏が登壇し「地域で稼ぐためには『なぜ』(どうして)それをしたのか」が重要」と講演。続いて、移住定住促進メディアMACHIOGの岡田拓也氏から事業資金の調達手段「クラウドファンディング」が紹介されました。

今後、「商品開発」「観光資源発掘」の2チームに分かれ、涌谷ブランドの開発が行われていきます。



(左) 多彩な講師陣が次の日から始められる地域ビジネスの手法を伝授 (中) 朝日町ブランド大学の参加者と交流し吸収する涌谷の参加者 (右) 貼られた付箋の数だけ顕在する魅力
【涌谷まち・ひとデザインラボ問合せ】企画財政課企画班 ☎43-2112

死亡事故ゼロ継続に向け

1月4日(月)に、涌谷町の交通安全のために活躍している涌谷町交通安全指導隊(日野善勝隊長・隊員17名)の出初式を多数の関係者のご臨席のもと、挙行。

大橋町長は、「申年の本年は、猿のように器用に対応し、知恵をもって、これからは交通安全施策において、交通事故ゼロを目指し、町民の皆様方に、さらに安心して暮らしていただけるまちづくりに向け、決意を新たにしたい」と挨拶。

二瓶副隊長は、「日々変化していく社会情勢のなか、私たちを取り巻く交通環境も同様に変化。児童・生徒そして高齢者に対し、加害者になり得ることを含め、しっかりと指導していく」と訓示。隊員一同、気持ちを新たに涌谷町内の無事故を誓いあいました。

なお、平成27年12月10日をもって死亡事故ゼロ1年を達成し、県警本部長から祝詞が贈られています。



▲日々の交通安全の啓発から催事の交通整理までを一手に担う

平成27年 涌谷町内交通事故件数

	人身事故	死者	負傷者	物損事故
平成27年 ()内前年比	42件 (-7件)	0名 (-3名)	60名 (-4名)	276件 (-70件)
平成26年	49件	3名	64名	346件

1年の無事故・無火災・無災害を祈念

交通安全指導隊・消防団出初式

火災・災害のない町へ

1月17日(日)に、今年1年間の無火災・無災害を祈念する歴史と伝統ある涌谷町消防団(横山武彦団長・団員285名)の出初式を挙行。

月将館小学校から恒例の隊列行進を実施。本町交差点付近において、大橋町長の観閲を受け、式典会場の勤労福祉センターへと一団は勇壮に向かいました。

式では、町長が「今後発生が危惧される異常気象等による自然災害被害に備えた消防防災体制の強化を着実に進め、災害に強いまちづくりを進める」と告辞。

また、横山団長は「消防人として決意を新たにし、一層の研さんを積み、今後も地域防災の要として信頼される消防団として活動していく所存」と訓示。その後、新入団員への辞令交付及び表彰伝達等が行われました。

来賓の皆さまからの激励・祝辞後、無火災・無災害を祈念するはしご乗りが披露され、参加者全員で、「無火災・無災害」を誓い合いました。

平成27年 涌谷町内火災件数

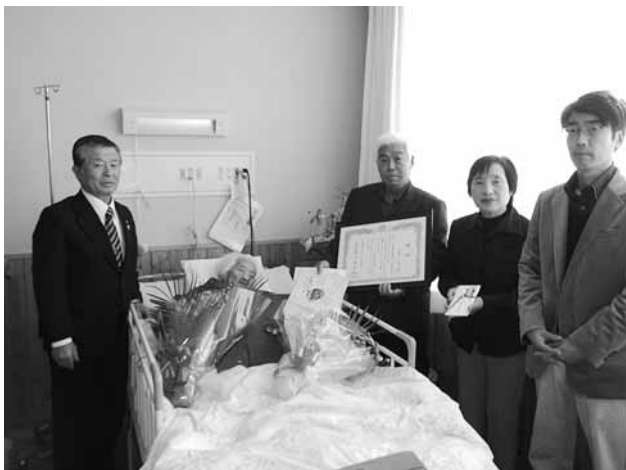
地区別件数		火災の内訳	
西地区	1件	建物火災	3件
東地区	1件	その他火災	3件
籠岳地区	4件	損害額	
計	6件	4,422,000円	
昨年比	+4件		



▲未来の消防団員が、勇壮に行進する隊列に敬礼

満百歳おめでとうございます

阿部シゲヨさんに敬老祝い金を贈呈



1月7日(木)に、籠岳区
の阿部シゲヨさんが、満百
歳を迎えられました。
阿部さんは、若い頃は二
葉園宗家日本民謡桃水会涌
谷支部で民謡を習い、桃水
の名を頂いたそうです。秋
の山唄全国大会に桃水会の
一員としてゲスト出演され
たことがあるそうです。
どうぞこれからもお体に
十分に気をつけて、ますま
す長寿でありますよう、お
祈りいたします。

多年にわたるスポーツ少年団の指導者としての功績に

紺野芳彦氏に文部科学大臣表彰



10月9日(金)に文部科
学省において、紺野芳彦さ
んが生涯スポーツ功労者と
して表彰されました。
昭和61年から今日まで涌
谷フットボールクラブスポー
ツ少年団を精力的に指導す
るとともに、涌谷町・大崎
地区のスポーツ少年団の要
職を務め、現在は宮城県ス
ポーツ少年団の副本部長と
して県内のスポーツ少年団
の発展に努めておられ、そ
の功績が認められ、今回の
表彰となりました。

地域に奉仕する心を子どもたちが自主的に育む

涌中生がどんと祭会場を清掃



1月15日(金)、池に氷が張る
寒さの朝、約150名の生徒が
自主的に城山公園に集合。ボラ
ンティアグループ「涌中アルカ
ス咲楽隊」による清掃活動が実
施されました。
どんと祭後ということもあり、
散らばった燃えカスなどが拾い
集められました。
また、この日は、新生涌谷中
学校として初めての立志式でも
ありました。生徒一人ひとりが
「将来の夢」とともに「人のた
めに奉仕する尊い志」を表明し
ていました。

卒園児が育ててくれた幼稚園に恩返し

修紅幼稚舎でコンサート



1月15日(金)に、修紅幼稚舎
において宮城学院女子大学4年
の学生4名によって、声楽やピ
アノ、フルートのコンサートが
行われました。
このコンサートは、大学のゼ
ミの取り組みで、演奏者が会場
に向き、音楽を身近に楽しん
でもらうことを目的としていま
す。すべて学生が企画立案する
そう、園の卒園児でもある庄
子奈七さんが、幼い頃育った幼
稚園に恩返ししたいというこ
とで実現。手遊びなどを交え、子
どもたちも笑顔で楽しんでいま
した。